

平成二十四年度

(児童指導員科) 入所試験問題

国語

注意 問題は二頁と十三頁に印刷されている。
解答は解答用紙の所定欄に記入すること。

第一問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

アメリカの憲法学者ローレンス・レッシング (Lawrence Lessig) は、情報化社会における権力のあり方を論じた著書『CODE』において、我々を規制する手段に法・市場・社会規範・アーキテクチャという四つのモードがあると分析した。

たとえばいま、ホームレスが地下街の通路で寝るのをやめさせたいとしよう。我々はもちろん法によってそれを禁じたり、それはよくないことだと社会規範に訴えて説得することができると。地下街という公共の空間の価格を操作することはできないが、ダイ(ア)タイ財である安アパートや簡易宿泊所の価格を引き下げることができれば、aに地下街で寝る人は減ることだろう。財の価格や供給水準を決める市場のあり方によって、人々の行動は左右される。

これに対し、たとえば妙な突起物を設置していくことによって、寝ころぶことのできる隙間をbに無くしていくとすれば、それがアーキテクチャによる支配である。レッシングは「社会生活の『b』につくられた環境』をアーキテクチャと呼んでいる。我々がその内部で行為を行なう空間のあり方それ自体に操作を加えることによって、我々の行動をコントロールすることが可能になるのだ。

もちろん先ほどの地下街の例は、架空のものではない。新宿駅の西口から都庁に向かう地下通路の目立たない部分、周囲から引つ込んで人々の通行しにくい部分、言い換えればホームレスたちが通行人に邪魔されることなく寝転がれるような部分には、青島都知事時代の一九九六年、オブジェと称する奇態な出っ張りが設置された。斜めに切り取られた先端は、ホームレスをその領域から完全に排除することを狙っている。通路の反対側、動く歩道とのあいだに設けられたフェンスも、歩道とのあいだを仕切るだけでなく、一定の面積が確保されることを妨害しようとしているのだろう。

自然法則は誰かが決めたものではないから、我々が空を飛べないことは自由に対する制約ではないと、リバタリアンは言ったのだ。だが法則それ自体はそうだとしても、それが働く環境自体を操作することによって我々が何かをする可能性があらかじめ奪われているとすれば、それもまた自由の侵害にはあたらない、のだろうか。

このような権力をcに行使しようとする主体は決して国家や地方自治体に限定されるわけではない。二〇〇五年に開港した中部国際空港・出発ロビーのベンチは、合間合間に挟まれたひじ掛けによって、座席部分が三つ連続しないようになっていた。おそらくこれは、ベンチを占拠して寝ころぶ旅行者が出ないようにするための空港会社による工夫だろう。

あるいは、二〇〇六年に発覚した東横イン不正改造問題を想起しよう。ハートビル法(高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律、平成六年法律四四号)によって公共性の高い建築物に設置が義務付けられていた設備を、検査が終わった後で不正に撤去したり改造して客室に転用したなどの不正がcに行なわれた事件である。特別な対応を必要とする身体障害者をcにコキヤクから排除するための一つの簡単な方法は、障害者がホテルに入ってくる可能性を物理的に消去することだ。ロビーの床から視覚障害者のための点字ブロックを撤去するという対応を、Aアーキテクチャ的支配の観点から理解する必要があるのではないか。

レッシング自身は、コンピュータ・ネットワーク上で可能となる振る舞いがさまざまな

ログラムによって決定されていること、そのプログラムによって実現されるアーキテクチャは、従って、そのプログラムを作り出した「誰か」によって決められているということ
を主要な問題として考えている。「一九世紀半ばに自由を脅かしていたのが規範で、二〇世紀頭にはそれが国家の力で、二〇世紀半ばのかんりの部分で自由を脅かしたのが市場だったなら、わたしの議論というのは、二〇世紀末から二一世紀にかけて別の規制手段——コード——こそが懸念となることを理解すべきだということだ」(レッシング)。プログラムのコードを書くものが二十一世紀の権力者になると、彼は恐れている。

だがすでに挙げた例からもわかるとおり、アーキテクチャの操作はネットワークの中でしかできないというわけではない。我々が生きている普通の空間においても、それは利用され得る。だが、B そのアーキテクチャの権力のどこが特別なのだろうか。

レッシングが注目するのは、規制手段への意識を必要とするか否かという点である。法や規範の場合、それに違反したものに制裁が加えられることによって規制は d に機能する。地下街で寝たホームレスは刑事罰を受けることになるかもしれないし、人々に指さして笑われることによってある種の共同体的な制裁を受けることになるかもしれない(ここではそんな規制内容・規制手段を E サイヨウしてよいかという問題は度外視しておこう)。もちろん我々は制裁があることを予想し、それを回避しようとするから、これらの規制の存在によって特定の行為を思いとどまる可能性はある。だがそのためには X。

ところがアーキテクチャは、そのような意識を必要としない。「鍵は、鍵がドアをブロックしているのを泥棒が知らなくても、泥棒を制約する」(レッシング)。アーキテクチャの権力は、我々がそれに気付くことなく、Y。法律や規範に対して何の知識も持たない存在も、アーキテクチャに従わせることはできる。いやそれどころか、人格なき存在であっても支配の対象にできることは、鍵のかかったドアの内側には誰も——人間だけでなく犬や猫も入れなくなることを考えればわかるだろう。アーキテクチャの権力は、「個人」を必要としない。

我々は知らないうちに、ある一定の行為可能性の枠の内側に閉じこめられているのかもしれない。その枠の内側では我々の行為選択に制約を加えるものはなく、我々は完全な消極的自由を F キョウジユできるでしょう。だがこれは本当に自由なのだろうか？ もし我々はその制約の存在を知っていたとして、それでもなお我々の選択はどのような制約がない場合と同じだと知ることができるだろうか。我々は迷路に閉じこめられたマウスと、どこがどのくらい違うのだろうか？

アーキテクチャは我々の生活を制約する。そうであるならば、法や規範に制約される我々がその善悪良否を論じ、何を受け入れ何を拒絶するかを決定しなくてはならないように、コードについても我々が決定しなくてはならないのではないだろうか。何が「社会規範」であるかは、その社会を形作っている我々自身が決めていくことだろう。政府がそれを通じて我々を支配する「法」は、人民が選挙を通じてその政府を支配することによって、我々自身のコントロール下にあると想定されている。だがアーキテクチャの権力に対して、それを形作るコードに対して、我々自身には何ができるのだろうか？

問題は、そこにおける支配が我々の支配されているという意識を必要とせず、我々はそこで「怒らせ、狂乱させ」(ルソー)られはしないかもしれないという点にある。アーキテクチャを主体の視点から見ると、自分がある特定の行動に追い込む・そうせざるを得

なくするシステムを誰か自分以外のものが作っているということになるはずだ。だがそれに主体が気付くことなしに従わされてしまう、そのような支配のあり方が登場するというのが、レッシングの分析に潜んでいる真の問題なのである。

(大屋雄裕「自由とは何か」)

問一 傍線部(ア)～(オ)と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

- (ア) ダイタイ
- ① 乗務員がコウタイする
 - ② タイクツな話
 - ③ タイサクを練る
 - ④ タイグウが悪い
 - ⑤ 理想をタイゲンする

- (イ) クシ
- ① クシンして仕上げる
 - ② 悪貨は良貨をクチクする
 - ③ サイクを施す
 - ④ ケイクを発する
 - ⑤ 論すようなクチョウで話す

- (ウ) コキヤク
- ① エンコを頼りにする
 - ② 受賞をコジする
 - ③ 幼いころをカイコする
 - ④ 事件をコチヨウして言う
 - ⑤ シヨウコを調べる

- (エ) サイヨウ
- ① 花をサイバイする
 - ② イサイを放つ
 - ③ ケツサイをすませる
 - ④ サイガイに見舞われる
 - ⑤ 法案をサイケツする

- (オ) キヨウジュ
- ① キヨウテイを結ぶ
 - ② 人生をキヨウラクする
 - ③ 哲学にキヨウミをもつ
 - ④ 労力をテイキヨウする
 - ⑤ カッキヨウを呈する

問二 空欄 a 〱 d (b は二つある) を補うのに最も適当な語を、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じものをくりかえし選んではならない。

- ① 組織的 ② 物理的 ③ 事後的 ④ 結果的 ⑤ 必然的

問三 空欄 X を補うのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 我々自身が定めた規制だという自覚を持たねばならない
② 我々の違法行為に対する処罰はこつそり行わなければならない
③ 我々はその規制に気づかないように、それを隠さなければならない
④ 我々が制裁を恐れるように、制裁を厳しくしなければならぬ
⑤ 我々はその規制を認識し、理解していなくてはならない

問四 空欄 Y を補うのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 我々の違法行為を、後からこつそりと処罰する
② 我々の行為に先立って事前に、我々の行為を制約する
③ 我々の警戒意識の裏をかくて、我々の行為を制約する
④ 知らないうちに法に従うように、我々の行為を誘導する
⑤ 規範に反する行為をしてしまうように、我々を追い込む

問五 傍線部 A 「アーキテクチャ的支配」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 環境を一定のコードのもとに管理することによって、人々が法を犯さないようにその行動を規制すること。
② 空間をプログラム通りに改造することによって、特定の人々を社会全体から排除するように仕組むこと。
③ 環境に故意に手を加えることによって、人々の行動が均一化するようにコントロールすること。
④ 環境自体を操作することによって、人々の行為を一定の可能性の枠の中に閉じ込めてしまうこと。
⑤ 空間のあり方自体に操作を加えることによって、人々が特定の行為を自制するように仕向けること。

問六 傍線部B「そのアーキテクチャの権力のどこが特別なのだろうか」とあるが、「どこが特別」なのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 人々に支配されているという意識を持たせずに、人々の行動を支配するところ。
- ② 人々が規範に従わざるを得なくなるように、人々の行動を支配するところ。
- ③ 人々が違反行為を自粛せざるを得なくなるように、人々の行動を支配するところ。
- ④ 人々が人格を喪失して体制に従順になるように、人々の行動を支配するところ。
- ⑤ 人々に自分は自由だと思わせておきながら、人々の行動を支配するところ。

問七 本文の内容に合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選びなさい。

- ① 二十一世紀になって我々の行動を規制する手段はもはや法や規範ではなくなり、アーキテクチャに代わった。
- ② 自然の法則によって我々人間は空を飛ぶことができないが、それも自由に対する制約だと認めるべきである。
- ③ アーキテクチャの権力が問題なのは、それを振るうのが公的な機関よりもむしろ民間の企業だからである。
- ④ アーキテクチャの権力は、それを行使するにあたって人間の知識や人格といったものは問題にすることはない。
- ⑤ アーキテクチャの操作はネット上で行われる限り問題はないが、それが現実の空間で行われるのは問題である。
- ⑥ アーキテクチャは法や規範とは異なり、制約を受ける我々自身がその決定に関与することはできない。

第二問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

どんな文化にも神話が存在する。古い意味の神話は、超自然的なもの^(ア)ソウグウする英雄の冒険を語る作者不明の物語である。寓話や寓喩によつて世界を語り、信仰や慣習、社会のもつ価値観などを象徴化するはたらきがある。

しかし、ここでいう神話はもう少し意味が広い。神話とは「創られたもの」である。罗兰・バルトが『神話作用』で示したように、私たちが日々の生活を理解するための手段だ。

バルトは、大衆文化、ファッション、広告、そしてメディアやスポーツの「神話学」を分析し、文化に永遠性が与えられ、「自然」なものにされるプロセスを示した。バルトによれば、神話は真実をゆがめたり、隠したりするものではない。むしろ神話は、ある文化のなかで「真実とされている」ことを指す。

神話は、私たちが自分たちを理解するために、自分たちに向けて語る物語である。集団やコミュニティ、あるいは国は、それぞれのアイデンティティーについてそれぞれの物語をもっている。真実かどうかはわからないが、真実とされる神話は、自分たち自身と世界のありようを「自然なもの」「当たり前なもの」として位置づけるシステムとして機能する。

そのとき「神話は節約をする」と、バルトは書いている。「深みがない故に矛盾もない世界、自明性の中に広げられた世界を組織するのだ。神話は幸福な明晰さを打ちたてる。ものごとはひとりでに意味を持つように見えて来る」

A この意味でいう神話のなかには、ステレオタイプが含まれる。ステレオタイプとは「ある集団、ある部族、階級などに関する、一面的で、コイチヨウされ、通常は偏見を含んだ見方」のことだ。

ステレオタイプはもともと印刷業界の用語で、ステロ版（鉛版）印刷術を指す英語だった。これをアメリカのジャーナリスト、ウォルター・リップマンが一九二二年の著書『世論』のなかで、「判で押したように多くの人が共有する固定観念」を表すことばとして使った。

この本のなかでリップマンは、民主主義とジャーナリズムの關係に考察を加えている。ジャーナリズムが民主主義のためにやるべきことは、正確な情報の発信とニュースソースの秘匿^{ひかく}だと、リップマンは強調した。しかし、人の心は本質的に情報をゆがめるものだという。なぜか。理想的には、まず事実を集め、それらを分析してから結論に達するべきなのだ。が、往々にして人は事実と向き合う前に結論を決めてしまうからだ。

リップマンは、そこにステレオタイプがはたらいっていると考えた。ステレオタイプがあると、私たちは「X」ようになると、リップマンは書いた。「私たちは、文化が定義ずみのものを拾い上げるだけになる。文化がステレオタイプのかたちにしたものを拾い上げ、それを理解するだけになる」

ステレオタイプは強力で寿命が長い。逆のことを示す証拠があっても、訂正が加えられないことが多い。なぜならステレオタイプは、それを通じて世の中をみている集団の社会的な団結をつくり上げているからだ。民族Aが民族Bをステレオタイプを通してみること、民族Aは民族Bを「彼ら」と認識する。さらに、そうみている民族AはA自身に集合

的なアイデンティティを感じ、「私たち」と認識する。こうして神話とステレオタイプは「私たち／彼ら」の境界を構築する。

「日本代表は組織力が強み」という言説が神話を含んでいることは、この言説の歴史をたどると、よりはつきりみえてくる。二〇〇九年のワールドカップ予選トッパ(ツッパ)を報じる記事を待つまでもなく、日本代表ははるか前から「組織力」が強みのチームとして描かれていた。

たとえば二〇〇六年ワールドカップ・ドイツ大会の際に書かれた次の記事だ。

気候風土や国民性、体格の遠いといったものに規定されて、各国それぞれが **a** なスタイルをばぐくんでいるのがサッカーの魅力だろう。日本もボールを扱うテクニクの向上を支えに、スピードのあるパス回しで構成する中盤は一定の評価を受けている。このスタイルを世界に通用するものに高めるには、日本人が得意な組織で戦う能力を生かさなない手はない。

最後の文に「日本人が得意な組織で戦う能力」というフレーズがある。「日本人が得意な」という表現は「日本人のサッカー選手が得意な」という意味で書いているのかとも思えるが、記事を読み返すとそうではないことがわかる。最初の文に「気候風土や国民性、体格の違いといったものに規定されて、各国それぞれが **a** なスタイルをばぐくんでいるのがサッカーの魅力」とあるからだ。「国民性」はサッカーのスタイルを決める重要な要素になるといえるのが、この記事の基本的な構えである。「組織で戦う能力」の高さは日本人選手の特長にとどまらず、日本人一般の「国民性」であり、サッカーに「生かさなない手はない」国民の長所だと、記事ははつきり主張している。

だとすれば日本代表のキーワードである「組織力」は、代表チームのもつ戦術の分析的な記述を超えたものであり、B「日本人」は規律や組織にたけているというステレオタイプな自画像に基づいたものといえるだろう。

「組織力」と対になってよく使われるのが、「身体能力」ということばだ。メディアは、日本人選手は「身体能力」で劣るから、持ち味の「組織力」で勝負するという言い方を繰り返している。二〇〇六年のワールドカップのときもそうだった。

「組織力」ということばと同じく、「身体能力」も意味がはつきりしない。走る、跳ぶといった、ごく **b** な運動能力のことなのか。それとも、シュートやドリブルなど、もう少し **c** なプレイの能力なのか。

スポーツ社会学者の山本敦久は二〇〇二年ワールドカップの期間中に新聞に発表した論考で、このことばをめぐる混乱について書いた。「身体能力」ということばはテレビや新聞で頻繁に使われているが、「用いられた」トタンに解説は曖昧となり、私たち視聴者や読者は混乱してしまう」と、山本はみる。ピッチで練り広げられているはずの複雑なプレイや戦術の内容が、「身体能力」ということばで単純化され、サッカーを語る楽しさが閉塞させられているという。

さらに山本は、このことばによってプレイや身体が言及されるとき、その視覚的表象にはあらかじめ **d** な境界線が引かれていると指摘する。「高い身体能力」の持ち主とされる選手やチームは、必ずといっていいほど、黒人選手やアフリカのチームであるためだ。たしかに二〇〇六年ワールドカップの記事をみても、「高い身体能力」はほとんど必ずア

リカのチームに使われている。

「高い身体能力」ということばがほとんどアフリカのチームだけに使われていることは、たいいてい「アフリカ特有の」「アフリカ独特の」というフレーズがついていることからわかる。その一方で山本は、たとえば二〇〇二年大会で準優勝したドイツのゴールキーパー、オリバー・カーンのセービングは「高い身体能力」の表れとはみなされず、「ゲルマン魂」の権化などと言われたことに注目する。

カーンは「精神」と結びつけられ、アフリカの選手は「身体」が強調される。この「精神／身体」の境界線は、「白人／黒人」「ヨーロッパ／アフリカ」という境界線と重なっている。山本は指摘する。「高い身体能力」というあたかも称賛のように聞こえるこのことばは「その裏返しとしてプリミティブで野蛮で文明化されていない身体という意味」を繰り返し生みだしていく。「身体能力」ということばは、ゲームを見る者の視覚をその意味で占拠し、C 見られる者の表象を身体的能力に還元していく。

「高い身体能力」ということばが「身体ⅡアフリカⅡ未開」と「精神ⅡヨーロッパⅡ文明」という二分法を前提としているなら、そのタイ(付)シヨウとして頻繁に使われる「組織力」ということばは、「日本代表」という名のサッカーチームと日本人を「精神」の側に置いて語りたいたいという欲望の表れとも受け取れる。あるいは、アイデンティティーとは Y であるから、日本代表を「組織力」というキーワードで語るために、アフリカ勢を「身体能力」をキーワードとして語る必要があつたともいえるだろう。日本のメディアは、「高い身体能力」をもつアフリカ勢に対して、日本代表は「組織力」を武器に戦うという図式をよくつくり上げる。

(森田浩之「メディアスポーツ解体」)

問一 傍線部(ア)～(オ)と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

(ア) ソウグウ
 ① ソウサク願いを出す
 ② 作品のコウソウを練る
 ③ シンソウを究明する
 ④ 冬山でソウナンする
 ⑤ コウソウビルが建つ

(イ) コチヨウ
 ① 意見をチヨウセイする
 ② 領土をカクチヨウする
 ③ 税をチヨウシユウする
 ④ 制限時間をチヨウウカする
 ⑤ 敵をチヨウハツする

(ウ) トツバ
 ① ハロウ注意報
 ② 人材をハケンする
 ③ ハスウを切り捨てる
 ④ 状況をハアクする
 ⑤ 建物をハカイする

(エ) トタン
 ① 胸中をトロする
 ② 著者のイトを見抜く
 ③ トロウに終わる
 ④ ゼント多難
 ⑤ 財産をジョウトする

(オ) タイシヨウ
 ① 自然ゲンシヨウ
 ② キシヨウが激しい
 ③ 注をサンシヨウする
 ④ セッシヨウを重ねる
 ⑤ アイシヨウで呼び合う

問二 空欄 a d a は二つあるを補うのに最も適当な語を、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じものをくりかえし選んではならない。

- ① 人種的
- ② 基本的
- ③ 具体的
- ④ 個性的
- ⑤ 普遍的

問三

空欄 X

・ Y

を補うのに最も適当なものを、次の各群の①～

⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

- X
- ① 定義してから事実を集めるのではなく、事実を集めてから定義する
 - ② 定義してから状況を分析するのではなく、状況を分析してから定義する
 - ③ 定義してから情報を集めるのではなく、情報を集めてから定義する
 - ④ 結論を決めてから定義するのではなく、定義してから結論を決める
 - ⑤ 観察してから定義するのではなく、定義してから観察する

- Y
- ① 他者との一体化の上に築かれるもの
 - ② 他者の排除によって成立するもの
 - ③ 他者と対になって形成されるもの
 - ④ 他者に帰属することで成立するもの
 - ⑤ 他者を支配することで形成されるもの

問四

傍線部 A「この意味という神話」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① ある文化のなかで真実とされる物語であり、自分たち自身と世界のあり方を自明なものとして位置づけ、自己理解を可能にする。
- ② ある集団のアイデンティティーについての物語であり、人々が抱いている偏見を正す働きがあり、自己理解を可能にする。
- ③ 自己理解のために自分たちに向けて語る物語であり、集団のアイデンティティーを強化するために、その物語が真実らしく語られる。
- ④ 信仰や習慣、社会のもつ価値観などを象徴化した、寓話や寓喩であり、人々が日々の生活を理解するための手段である。
- ⑤ 英雄の冒険を語る作者不明の物語であり、それを自分たちに向けて語ることで、集団のアイデンティティーを強化する働きがある。

問五 傍線部B「『日本人』は規律や組織にたけているというステレオタイプな自画像」とあるが、これは「日本人」についてのどのような見方のことを言ったものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 日本人は組織力にすぐれているという、事実に基づいて形成され、多くの日本人によって共有されるようになった見方。
- ② 日本人は組織力にすぐれているという、多くの日本人が自らの国民性について共有している、固定化された見方。
- ③ 日本人は組織力にすぐれているという、他国民に対して優越性を誇示するために形成された、偏見にすぎない見方。
- ④ 日本人は組織力にすぐれているという、集団の団結を強めるためにたまたま形成されたにすぎない、暫定的な見方。
- ⑤ 日本人は組織力にすぐれているという、反対の事実があっても決して訂正されることのない、絶対化された見方。

問六 傍線部C「見られる者の表象を身体的能力に還元していく」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① アフリカ人選手たちのアイデアに富んだプレイも、観客たちは、自らを文明の側に置きたいために、プリミティブな身体による野蛮なプレイだと見なしてしまうという事。
- ② アフリカチームの複雑なプレイも、観客たちは、アフリカ人選手たちへの強い差別意識から、野蛮な身体がプリミティブな力を発揮しただけだととらえてしまうという事。
- ③ アフリカチームの試合を観戦するとき、観客たちは、自らの精神性の高さを確認したいため、アフリカ人選手たちをただ身体能力が高いだけだとみなしてしまうという事。
- ④ サッカーには組織プレイや戦術など多様な面があるにもかかわらず、観客たちは、アフリカチームのプレイについては選手たちの身体能力だけに着目してしまうという事。
- ⑤ アフリカチームのプレイが見事な連係や戦術に基づいたものであっても、観客たちは、選手たちが高い身体能力を発揮した結果だと単純化してとらえてしまうという事。

問七

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① サッカーのナショナル・チームはその国の国民性を戦術に生かしてこそ、選手たちは自分たちの能力をいちばんよく発揮することができるようになる。
- ② メディアが日本人選手は身体能力で劣るから持ち味である組織力で勝負すべきだと語ることは、無視することができない真実が含まれている。
- ③ メディアがヨーロッパの選手は精神性と結びつけて語り、アフリカの選手は身体能力と結びつけて語ることは、人種差別的な意識が隠されている。
- ④ 神話のなかにはステレオタイプが含まれるとはいっても、神話が真実を真実として語るのに対して、ステレオタイプは真実を歪めて語る傾向がある。
- ⑤ 日本は組織力、アフリカ諸国は身体能力というように、各国のメディアは自国チームの特性をアピールして他国チームとの差異化を図ろうとする。

△解答例▽

受験番号

氏名

問一 (ア)

(イ)

(ウ)

(エ)

(オ)

問二 a

b

c

d

問三

問四

問五

問六

問七

二

問一 (ア)

(イ)

(ウ)

(エ)

(オ)

問二 a

b

c

d

問三 X

Y

問四

問五

問六

問七

合計	

--	--	--